

参考資料 1

平成 13 年 5 月 17 日

ITER 計画懇談会報告書（案）へのコメント

- 飯吉委員
- 大河原委員
- 藤原委員

ITER計画懇談会座長 吉川弘之殿

内閣府原子力委員会担当殿

平成 13 年 5 月 16 日

委員 飯 吉 厚 夫

今回のITER懇談会も、事前日程調整に記載の通り、都合がつかない日にセットされておりますので出席できません。当日出席して申し上げたいことを文書により提出しますので、ご検討ください。

1、既に懇談会席上や文書にて、ITER誘致を決定する前に、検討すべきことが残されていると述べてきました。具体的には 1) 基本的事項として科学的意義、科学者間における理解、実施体制の検討などが不十分である。2) ITER計画の一環として低誘導放射化材料の開発計画を明確に打ち出すべきである。 などであります。

しかしながら、ITER計画懇談会報告書(案)(見え消し修正版)にはこれらの点の修正は行われていない。したがって、もしこのままで最終報告書がまとめられるのであれば、少なくともITER誘致に対する慎重論、反対意見があることを併記していただきたい。もし、併記ができないのであれば、委員としての務めを果たせないので、発令者から委員を解任していただきたい。

ITER計画懇談会報告書（案）
についてのコメント

13. 5. 15
大河原良雄

1. 「全体的に文章表現が硬過ぎ、真意不明な部分も見受けられる」との伊原義徳氏（No. 150）の意見に同意。
2. P 2. ③の「私的利益を離れて」とあるも本計画は国家的性格のものであり、「私的利益」という考え方はなじまない。削除然るべし。
3. P 3. 2行目「結果に依存しない意義」は文意不明。計画を推進しても、結果は思わしくない場合もあり得べしとの前提で対処すべしとの考えかとも思われるが、もしそうならば不必要。
4. P 5. 最後より2行目④「我が国の活動」は「我が国の国際的活動」とでも改めるのが適当。
5. P 29. 最後より5行目～3行目
「このような事項に関する判断は当懇談会が行うことではなく、またすべきことでもない」と言いながら「指針を提示」というのは趣旨が一貫しない。
「検討事項」及び「要留意事項」とでも改めるべきである。

何人かのコメント、特に大学関係者の意見の中に、やはり核融合研究の多様な展開、拡がりの重要性が指摘されており、それを取り入れて

1) 報告書1ページ要旨の2番目のパラグラフの

「核融合の実用化に向けて、我が国をはじめ世界各国において多様かつ多くの研究開発が進められてきている。その中で、今後取り組むべき重要課題として、核融合反応により燃焼するプラズマを制御する技術確立することにより、多額の経費を分担しつつ国際協力の下で「国際熱核融合実験炉（ITER）」の建設が計画されている。」
を以下のように修文する。

「核融合の実用化に向けて、我が国をはじめ世界各国において、高性能閉じ込めや炉材料等に関して多様かつ多くの研究開発が進められている。それに加えて、今後取り組むべき重要課題として、核融合反応により燃焼するプラズマを制御する技術確立することにより、多額の経費を分担しつつ国際協力の下で「国際熱核融合実験炉（ITER）」の建設が計画されている。」

2) 報告書の33ページ1行～2行を下記のように変更する。

「そして先進方式の研究、炉工学研究や基礎研究も含めた包括的な研究が実用炉開発には必要である。また、それなくして我が国がこの分野で指導性を発揮し、国際貢献を果たす事はできない。」

そして先進方式の研究、炉工学研究や基礎研究も含めた包括的な研究が実用炉開発には必要である。また、それなくして我が国がこの分野で指導性を発揮し、国際貢献を果たす事はできない。

また、このような努力を行うに当たっては、長期的な視点に立つて計画を支える人材の継続的な育成が不可欠である。核融合研究開発は、多くの学問・技術の分野にまたがることから、他分野の研究者、技術者も含め、広く産学官の協力体制が構築されることに配慮すべきである。特に産業界については、ITER計画においては各国から機器・装置が搬入され、設置国において検査、組立、統合化が図られる必要があることから、研究者との連携の下に大きな役割を担うこととなる。また、ITERに多くの資金を投入する一方で、トカマク以外の方式を含む大学等における幅広い核融合研究への資金投入が減少し、その結果、核融合研究の基盤を損なうようなことになってはならないとの意見があるが、核融合研究の推進にあたっては、戦略的に重点化を図りながら推進体制を構築することが重要である。核融合研究の発展に必要な効率的効果的な資源配分が不可欠であり、資源の確保が図られるかが課題である。この資源問題を考えるに当たっては、科学技術全般における核融合研究の位置付けについて判断が必要である。

核融合研究開発に限らないが、研究開発を着実に進めるためには研究評価は重要である。特に、ITER計画のような大型プロジェクト研究に対しては、厳正な研究評価が求められる。政策評価体系における客観的な評価とともに、ITER計画は国際機関による国際共同プロジェクトとして進められることから、国際協議においてITER計画の実施体制を整備していくにあたり、厳正な研究評価体制が実現されるよう努めることが強く望まれる。